

紫野学区 (北区) の取組

■ 取組の経緯・進め方

紫野社会福祉協議会を中心に、自治連合会、消防団、地域活動を行っている方々が集い、コーディネーターとしてカルティベーションパートナーズ、全日本不動産協会、佛教大学、立命館大学等から識者が参画した「紫野学区空き家プロジェクト」を設置して取組を進めている。

これまで、空き家現況調査や空き家所有者アンケート所有者等の取組に加え、地元のイベントでのブースの設置なども行い、活動の啓蒙を行っている。

本年度は、2回目となる空き家所有者アンケート、防災まちづくりの取組と連携した空き家の再調査を行っており、こうした取組から所有者との繋がりが生まれ、空き家の改修や老朽化した空き家の解体などが進んでいる。

■ 具体的な取組

取組①：空き家現況調査

- ・各町内会会長へのアンケートにより空き家調査とMap作成
- ・危険家屋と推定される物件の確認と近隣住民への聞き取り
- ・上記調査を元に、地元住民と交流しながらのまちあるきによる調査(7町内)と活用の呼びかけ



▲平成24年10月に開催したまちあるきの様子

- ・空き家所有者の現住所の確認（登記簿を取得）
- ・各所有者へ活用意思の確認等のアンケートを平成25年度に発送
- ・所有者へのアンケートの返答に併せて更新された空き家情報の整理

空き家所有者アンケート調査結果の概要

- 発送：99通(宛先不明等の返送：21通)
- 回答：30通(物件数43軒)
- うち、協力したい・相談に乗ってほしいと回答があったもの：14通(物件数18軒)

空き家の特定数
(累計、平成24年度段階)
169件

取組②：空き家流通促進事業の取組の周知のため、チラシの作成と配布

- ・地元の各種イベント（紫野祭り等）に参加し、相談窓口の設置とチラシの配布を行う。（まちあるきの際などでも配布）



▲取組PRチラシ

取組③：空き家活用（学生を中心としたシェアハウスとしての活用提案と実施） （大学と地域活動グループとの連携）

大学生や若い人に住んで欲しいという地元の声が上がっていることから、学生や若者のシェアハウスとしての空き家活用を提案し、運営体制や大学、地元の活動グループとの連携体制を作り始めています。

入居者には、町内会に入居することを条件とし、地域活動にもできるだけ前向きに関わるよう呼びかけ、今後の紫野における空き家活用のモデルの一つとすることを目指す。



空き家活用の事例



▲取材の紹介（京都新聞H25.5.23）

＜みんなで取り組んだ改修の様子＞



できるところはなるべく自分たちで、楽しみながら取り組みました。

取組を通じて、大学生等の5名が入居することになり、シェアハウスでの暮らしを始めています。

■ 今後の取組

- ・情報の更新のための町内会との連携と体制づくり
- ・空き家を増やさないための啓蒙活動（ブックレットの作成と配布、空き家について各種講演会、説明会の開催）
- ・空き家の活用に関するつながりだけではない空き家所有者との関係づくり
- ・まちづくりとしての空き家活用のビジョンづくりと共有
- ・新たに入居してくる人たちに向けた地域の住まい方のルールづくりと提案